

令和元年度 小牧市まち・ひと・しごと創生推進懇談会委員 意見・質問一覧表

基本目標1 持続して発展を続ける産業・経済の確立による雇用の確保・創出

番号	ご意見・ご質問内容	回答	回答担当部(課)
1	《質問》 中小企業次世代成長産業設備等補助金の認定件数が伸び悩んだ原因をどのようにお考えでしょうか。認知不足が主な原因ならば、個別の企業訪問を強化することが有効と考える。同補助金に関する小牧市のHPを拝見すると、「導入した設備から開発、生産等される製品が次世代成長産業分野に合致している」、「既存の設備等の老朽化等に伴う更新のための取得の場合は対象にならない」など条件が厳しいように感じました。市独自の制度であれば、条件を緩和し、申請のハードルを下げるという手段も考えられます。まずは、中小企業を訪問するなかで、企業が制度を認知しているか、申請に至らない理由を分析し、対策をたてる必要があると思います。	過去3年間の交付実績は、 平成28年度 2件13,670千円 平成29年度 1件 2,271千円 平成30年度 2件10,325千円 となっています。 この制度は、中小企業者が次世代成長分野における製品の開発、生産等を行うために新たな設備を導入しようとする場合、その経費の一部を補助することにより企業の成長分野への参入を支援することを目的としております。補助率も10%で他の制度よりも高く設定しており、補助対象設備が目的と合致しているかを外部委員による審査会にて判断しております。よって申請のハードルは上がりますが、現制度で定める交付条件は必要なものと考えております。 また、既存の老朽化した設備の更新に伴う設備導入の支援については、この制度とは別に「中小企業設備近代化助成金」を用意して対応しております。 制度の周知に関しましては、企業訪問や会合などの機会を通じ、PRに努めてまいります。	地域活性化営業部 (商工振興課)

基本目標2 若年世代の希望がかなう結婚・出産・子育て環境の整備(こども夢・チャレンジNo.1都市の実現)

番号	ご意見・ご質問内容	回答	回答担当部(課)
2	《質問》 中央子育て支援センター、子育て広場利用者数には、子育て世代包括支援センターおよび子育て支援室(すくすくパオーンルーム)の利用者数は含まれるのでしょうか。含まれないのであれば、子育て世代包括支援センターと子育て支援室の利用者数を示してください。中央子育て支援センター、子育て広場利用者数は若干ではなく大幅に減少しています。それが子育て世代包括支援センターと子育て支援室の利用者数でカバーできているのであれば問題ありませんが、それを含めても減少しているのであれば、対策が必要だと思えます。子育て支援において遊ぶ場の確保は重要だと思います。ラピオに移転して対象年齢が下がったということはありませんか。	平成30年度については9月に子育て世代包括支援センターを開設したことに伴い、中央子育て支援センター、子育て広場を閉鎖しました。したがって、8月までは中央子育て支援センターと子育て広場の利用者数を、9月以降は子育て世代包括支援センターの利用者数の合計となります。 子育て広場は9月以降児童センターとして利用しており、9月から3月までの児童センターの利用者数は41,308人で、それを加えると10万人を超える利用者がありました。 子育て世代包括支援センター利用後に児童センターでも遊ばれる方も多くみえ、児童センターの乳幼児親子の利用が増えました。	こども未来部 (こども政策課)
3	《質問》 施策2(1)、夢育み事業のところ、様々な事業を実施したことはわかりますが、その反応はどういったものだったのでしょうか？ ※事業に参加した子供たち・保護者の声などです。	市内産業見学、駒来塾については参加者にアンケートを行っており、概ね好評なご意見をいただいております。(市内産業見学に参加された多くの方から「楽しかった」というご意見、駒来塾参加児童のうち半数程度の方より「楽しい」というご意見、駒来塾参加児童の保護者のうち半数の方からは学習の定着・向上につながっているのご意見をいただいております。)	こども未来部 (こども政策課)

令和元年度 小牧市まち・ひと・しごと創生推進懇談会委員 意見・質問一覧表

基本目標3 都市の活力と暮らしの安心の創造

番号	ご意見・ご質問内容	回答	回答担当課
4	《質問》 防犯カメラ設置の維持管理の経費は区(自治会)が負担しているということでしょうか。そうであるならば、設置台数が増えれば購入代金と維持経費もかさむので、区が防犯カメラを積極的に設置しようとはなりません。安心して暮らせる街を目指すのであれば、設置補助ではなく小牧市の事業にはできないでしょうか。地域の実情を知る区からの要望を受け付け、小牧市が必要と判断した箇所に設置し維持するという形の方が目的を達成できると思います。	市内における刑法犯認知件数は、平成15年の6,353件をピークに減少しており平成30年中は、1,374件と約8割減少しています。しかし、依然として市民の皆さまの身近で発生する自転車盗や部品ねらい、車上ねらい等の被害が多く発生しており、予断を許さない状況にあります。 犯罪の防止には、防犯カメラ設置を始めとしたハード面の対策のほか、ソフト面の対策として、地域の絆を強めて防犯力を高めることが重要であると考えます。防犯カメラ設置の必要性や設置場所を区で検討し、設置後の維持管理等について、年度が替わるごとに引き継ぐことにより、地域の犯罪発生状況等に関心を持ち、絆を深め「自分たちのまちは、自分たちで守る」といった、高い防犯意識を持ち続けていただくことができると考えます。 なお、市では「登下校防犯プラン」に基づいて、平成30年度に市、小学校、小牧警察署が合同で実施した通学路緊急点検を元に、小学校や各区長に小学校の通学路を中心とした見守る目が手薄となる場所を選定してもらい、防犯カメラ100台を設置する通学路防犯カメラ設置事業を進めております。今後の活用状況や犯罪発生状況等を検証し、事業の継続や設置場所の変更にあわせて、設置台数の変更についても検討し、安全で安心して暮らせる小牧の確立を目指します。	市民生活部 (市民安全課)
5	《質問》 「安全で安心していきいきと暮らせる町と思う市民の割合」は目標達成して素晴らしいですが、平成30年度に74.5%と突然急上昇しましたが、この理由は？どの属性がどう変化したのでしょうか？具体的な内訳を教えてください。	「安全で安心していきいきと暮らせるまちと思う市民の割合」は、平成29年度に比べ14.6ポイント上昇しています。年齢別では、全ての世代で上昇しており、特に30歳代で23.0ポイント上昇(51.4%→74.4%)、40歳代で20.3ポイント上昇(53.0%→73.3%)しています。また居住年数別では、「生まれたときからずっと」が80.9%、「転入後5年以上」が73.1%、「転入後5年未満」が66.6%であり、居住年数に比例して「安全で安心していきいきと暮らせるまちと思う市民の割合」が高いことがわかりました。	市長公室 (秘書政策課)
6	《質問》 施策1(2)、5,000歩以上歩く市民の割合の実態はどうなっていますか？数字をあげるための重点的な対象はどこでしょうか？	市民意識調査の結果を経年で見ると30、40歳代の働き世代、子育て世代で5,000歩以上歩く割合が低くなっています。しかしウォーキングアプリalkoの年代別実利用者数からは、働き世代・子育て世代の利用者割合が高いため、アプリの活用をより一層周知し、日頃から歩く習慣を身につけていただくよう促すとともに、イベントやSNSで健康に関する情報を幅広く発信してまいります。	健康福祉部 (保健センター)

基本目標4 訪れたくなる、住みたくなる小牧の魅力発信

番号	ご意見・ご質問内容	回答	回答担当課
7	若者のライフイベント時の転出をいかに抑えるかが重要である。夢サポーターが伸び悩んでいるが、地域で支えることがポイントとなると考えられる。地域で子育てしやすい環境を作り、若者がここに住み続けたいと思う地域づくりが必要であるが、既存の事業以外に対策として検討していることはありますか。	定住促進の観点からは、前作と違った視点で新たなブランドムービーを制作し、ホームページ、デジタルサイネージ及びYouTubeによる動画配信を行い、市内外の方々へPRを行う予定です。更にブランドムービーの画像を使用したブランドブックも合わせて制作し、イベント等において積極的に配布を行いPRを行う予定です。地域で子育てしやすい環境づくりにおいては、現在、小牧市こども・子育て会議において第2期(令和2年度～6年度)の子ども・子育て支援事業計画を策定中であり、検討をすすめているところです。	地域活性化営業部 (シティプロモーション課) こども未来部 (こども政策課)